

猿倉ベースキャンプで白馬岳周辺の山スキー

2012年4月29日(日)～5月1日(火)

L:池田T(記)、ヤマメ、いぶ、岩倉

4/29(日) 晴れ

二股のゲートは4/27から通行可能。猿倉山荘前の駐車場は満車。下の広い駐車場もほぼ満車であった。山荘前には臨時的登山指導所があり、遭対協の方に計画書のチェックを受ける。

林道は出だしから雪があるのでスキーで歩ける。800mほど進んだ所で林道を離れて尾根に取り付く。鑓温泉に向う夏道は雪に覆われていて全く分からないが、雪上には多くのトレースがある。

登るにつれて尾根は広がり台地状になる。標高1450mあたりの雪原にベースキャンプを設営する。既に3パーティーのテントがあった。宿泊用の装備をデポして小日向山に向う。



駐車場はほぼ満車



ブナが多い尾根を登っていく

高い気温で雪がザラメ状になっているのでシールの効きはイマイチ。標高1700m付近の傾斜がキツイ所では、折り返しつつ登るが体重のかけ方がいいか減だと足元の雪がすぐ崩れる。小日向のコルが近くなると傾斜が緩んでほっとする。

山頂は多くの人で賑わっていた。ほとんどがスキーヤーであった。



まずは小日向のコルを目指す。正面は双子尾根。



小日向山の山頂にて。バックは白馬鑓。

滑降ルートは無難に登りとほぼ同じルートとした。北よりのルートをとるパーティーも見られたが、ここ小日向山では昨年の3/11に雪崩事故が発生している。油断は出来ない。

ザラメ雪は適度な抵抗があるので急な斜面でも比較的滑りやすい。

滑降を楽しんだ後はベースキャンプで祝杯を上げる。雪に埋めて冷やしておいたビールは最高に美味かった。



快適な滑降



ベースキャンプにて乾杯

<タイム> 猿倉駐車場8:00 – 標高1450m付近 (ベースキャンプ設営)9:15~10:25 – 小日向山12:20~13:05 – ベースキャンプ13:35

4/30(月) 曇り一時みぞれ

曇りではあるが視界は悪くない。予定通り大雪渓に向う。猿倉山荘には降りずに長走沢の中流部を横切り、斜面を滑って林道に降りる。しばらくは林道沿いに進むが、やがてトレースは沢の中を進んで行く。

デブリは大雪渓の下部に多く見られたが、本流ではなく、支流あるいは側壁からの雪崩によるものだった。何mも堆積するような規模ではないが巻き込まれたら命の保証は無い。支流と出会う所では上方に注意してさっさと進む。尚、昨年4/29には稜線直下の標高2660m付近から発生した雪崩が標高2000m付近にいた登山者3名を死亡させている。GWの大雪渓は多くの人が入っているが危険であることには違いない。



白馬尻あたり。先行パーティーがちらほら。



標高2500m付近。

標高2500mあたりでみぞれが降ったが一時的で、視界も悪くならなかったのでそのまま進んだ。ただし時間の余裕が無くなったので標高2730mの村宮頂上宿舎にて引き返すことにした。大休止して準備を整え、滑降開始。広大な斜面に各々がターンを刻んだ。



広大な斜面を滑走中。

いぶと自分はベースキャンプには直接帰らず、駐車場に寄った。
駐車場とベースキャンプが意外に近かったので、車に置いてきた缶ビールを取りに行ったのだ。
今日の夕食はキムチ鍋。具たくさんで大満足であった。

<タイム> ベースキャンプ6:45 – 白馬岳頂上宿舎13:35～14:30 – 猿倉駐車場16:30～16:40 – ベースキャンプ17:25

5/1(火) 曇り時々晴れ

今日は下山日。金山沢に行ってからベースキャンプを撤収する予定である。
昨日と同様、長走沢の中流部を横切り、斜面を滑って林道に降りる。
金山沢には右岸から入ったが、やがてデブリに阻まれたので左岸に渡った。
200mぐらい進むとデブリがさらに増えてきて、このまま沢を登るには危険に思えたので 左岸の斜面を登って、尾根上を登ることにした。



金山沢出合から見上げる白馬岳。



金山沢左岸尾根を登高中。標高1550m付近。

尾根上はブナを中心とする疎林で良い雰囲気だった。ただし熊と見られる動物の足跡が多く見られたので少し緊張した。
急斜面のザラメ雪がシール登高しにくいのでペースが上がらず、さらにヤマメといぶのシールが スキーから剥がれるトラブルもあって、標高1770m付近まで登った所で引き返すことに。
金山沢に降りられそうな沢状地形を近くに見つけたので、そこを滑り降りた。



昨日滑った大雪渓を正面に見る。



この急斜面を降りて金山沢に合流。

沢の本流には降りたものの、快適に滑れたのは上部のほんの少し。沢の下部はデブリが多すぎる。この沢はやはり梅池からロープウェイを利用して登り、沢の上部に入って滑り降りてくるのが良いと思われる。そのほうが快適だし、沢の中に長時間滞在しないのでリスクが減る。



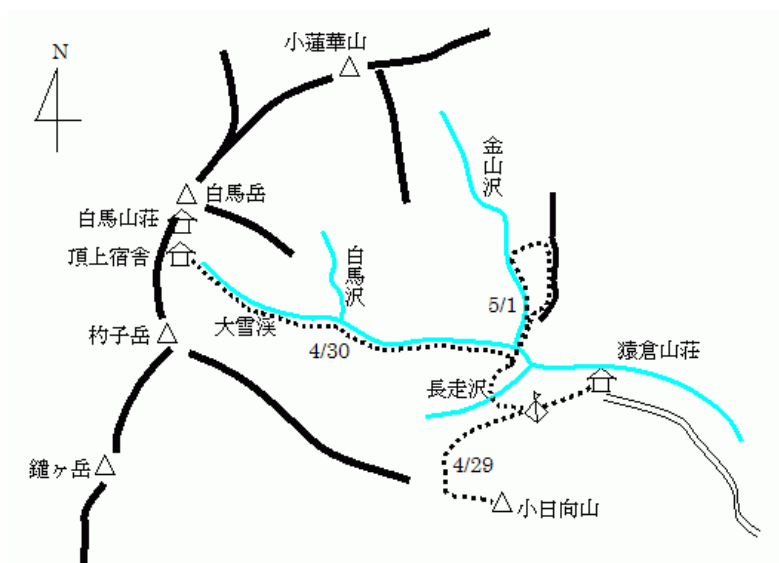
沢の底はデブリがあるので側面をトラバースする。



大荷物を背負っての滑降。林道に降りる手前。

大部分をトラバースで滑り降り、大雪渓本流との出会いに戻った。往路と同様のルートでベースキャンプに戻り、テントを撤収、駐車場まで最後の滑降を楽しんだ。

<タイム> ベースキャンプ6:40 – 金山沢出合7:20 – 左岸尾根1770m地点9:40~10:10 – 金山沢本谷10:15 – 金山沢出合10:55 – ベースキャンプ12:20~13:00 – 猿倉駐車場13:15



以上